

1 DPT[ジフテリア:Diphtheria、百日咳: Pertussis、破傷風:Tetanus]

幼少時に1期初回3回、追加1回接種している。ポリオも含んだ4種混合(DPT-IPV)で接種していることもある。国によっては小学校入学前(4歳以上)に5回目の接種が必要。

2 ポリオ、小児麻痺、急性灰白髄炎[Poliomyelitis、OPV(Sabin)、IPV(Salk)]

ポリオはポリオウイルスによって急性の麻痺が起こる病気。アフリカ、中近東、南西アジアでは接種を推奨。単独不活化ポリオ(IPV)または4種混合(DPT-IPV)で接種している場合、幼少時に4回接種している。入学時には4歳以降の追加接種が必要とされることがあるため、不活化ポリオ(IPV)または4種混合(DPT-IPV)で追加接種をする。生ポリオ(OPV)接種している場合、日本では2回しか接種していない。ポリオの流行地への渡航の場合、3~4回目の追加接種が必要。流行地でなくても入学の際に3~4回目の接種が必要とされることがある。現在日本では不活化ポリオ(IPV)しか手に入らないので、不活化ポリオで追加接種する。

3 ヘモフィルスインフルエンザ菌b型、Hib[Haemophilus influenzae type b]

多くの国では、定期接種になっている。日本でも2013年から定期接種になっているので、初回3回、追加1回接種していることが多い。年齢によって接種回数が異なるため、5歳未満で接種していない場合は年齢相当の回数を接種する。

4 小児肺炎球菌[Pneumococcal conjugate vaccine (PCV13)]

日本では2013年から定期接種になっているため、初回3回、追加1回接種していることが多い。国によって、定期接種のところと任意接種のところがある。年齢によって接種回数が異なるため、5歳未満で接種していない場合は年齢相当の回数の接種を考慮する。

5 BCG

途上国では生直後に接種している国が多い。日本でも定期接種となっている。生後3ヶ月以上の接種を勧められているが定期接種として生直後より接種できるので、流行地に渡航予定のある方は相談。また、アメリカなどでは定期接種になっていないため、入学時のツベルクリン反応で陽性になると結核とみなされ、抗結核薬の内服が必要となることもある。渡航前にツベルクリン反応をして、陽性ならレントゲン等で結核を否定して行くことを勧める。

6 A型肝炎[Hepatitis type-A、Hep-A]

A型肝炎は食べ物から感染する病気。アジア、アフリカ、中南米に広く存在する。1歳以上で接種できる。2~4週間隔で2回接種し、6ヶ月後(3ヶ月~2年)に1回追加接種をする。2回接種で約2年、3回で約5~10年間有効。
※出発が2週間以内で国産のA型肝炎の2回目接種できない方、海外で追加接種が必要な方、免疫を長く持たせたい方には、輸入A型肝炎がお勧め。1回接種後、6~12ヶ月後に2回目接種。2回の接種で20年間効果が持続する。

7 B型肝炎[Hepatitis type-B、Hep-B]

B型肝炎は主に血液を介しての感染であるが、唾液、体液からの感染もありアジアを中心に広く存在する。発展途上国に長期滞在する場合は接種を推奨。海外では多くの国が定期接種になっていて、入学時に必要とされる国も多い。日本でも2016年10月から1歳未満を対象に定期接種と4週間隔で2回接種し、6ヶ月後(3ヶ月~2年)で追加接種する。3回接種後の追加接種は必要ないともいわれている。

8 日本脳炎[Japanese Encephalitis]

日本脳炎は日本脳炎ウイルスを保有する蚊に刺されることによって起こる重篤な急性脳炎で、死亡率が高く、後遺症を残すことも多い。アジア地域(西はインド、東はオーストラリア トレス海峡諸島)では必要。6ヶ月以上で定期接種として接種できる。アジア地域に渡航する場合、或いは渡航により接種の機会を逃してしまう場合接種を勧める。1~4週間隔で2回接種し、約1年後(半年~2年後)に1回追加接種する。流行地でなければ、帰国後7歳半までに追加接種することも可。追加接種から5年後、9歳以上で2期を接種する。

9 狂犬病[Rabies]

狂犬病はヒトを含めほとんどのほ乳類に感染して致死性の脳炎を発症させる人畜共通感染症。2019年夏に新しいワクチンが国内承認された。渡航前に0日、7日、21-28日の間隔で3回接種する。ワクチンを接種していても動物に噛まれた場合は直ちに病院を受診し、追って輸入ワクチンを用いて、WHO方式(0-7日)で出発までに2回の接種を行うこともできる。詳細は別紙参照

10 黄熱[Yellow Fever]

アフリカや南米の一部の国が必要。9ヶ月以上で接種可能。入国10日前までに接種する。1回の接種で生涯有効。中部空港(セントレア)検疫所支所(0569-38-8205: 火曜日 13:00~)で接種できる。(※事前に予約が必要)

11 腸チフス[Typhoid Fever]

腸チフスは食べ物から感染する病気。アジア、東欧、中東、アフリカ、中南米などで流行している。国内で承認されているワクチンが無い場合、輸入ワクチンで当院は対応。2歳から接種できる。出発2週間以上前に1回接種。2~3年は効果あり。2歳以上で接種可能。

12 髄膜炎菌[Meningococcal Meningitis]

髄膜炎菌による髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎)は世界中どこでも流行するが、アフリカ(サハラ砂漠の南方)で流行がある。サウジアラビアではメッカ巡礼の入国の際に接種が義務付けられている。海外留学で寮生活をする場合にも接種を求められることがある。2歳から接種可能。1回接種。

13 麻疹(はしか)[Measles]・風疹[Rubella]・おたふくかぜ[Mumps]・水痘(水ぼうそう)[Varicella、Chickenpox]

アジアでの麻疹の流行など、国内外で流行がみられる。1歳以降接種できる。日本でもおたふく以外は定期接種となっているため、接種していることが多い。入学時には2回の接種を求められることが多い。

14 インフルエンザ[Influenza]

現地での流行時期を考えて、接種できる時期なら接種を勧める。